ブルーコーナーやジャーマンチャネル、ブルーホール、ニュードロップといった
魅力的なポイントを持ち、ダイバーに人気のパラオ。
ダイビング雑誌等で、毎回当然のようにクローズアップされるこれらの定番ポイントを、
今回はあえて無視した取材を敢行した。
これは、デイドリームパラオというサービスが、これらのポイントに潜らないという訳ではなく、
定番ポイントはその凄さが十分に多くのメディアで伝えられているため、
今回は「少しでも多くのダイバーに、もっとパラオの知られざる魅力を伝えたい」という思いから立ち上がった企画である。
そして彼らのパラオの海に対する熱い思いが、
ペリリューステーションという新たな形となって始動を始めた。
今回は、コロールとペリリューの２か所をベースにして、ハードに潜りまくった。

定番ポイントのジャーマンチャネル。今回はこの見なれた光景を横目に、取材が行われた

定番無視のパラオ

コロールベース vs ペリリューベース

Photo & Text : **Takaji Ochi**
Special Thanks : **ST World, Day Dream Palau & Peleliu Station**

Palau other than standard

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

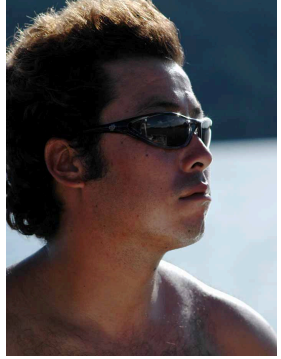
ゲロンアウトサイドに群れていたホウセキキントキ

ウーロンチャネルのメアジ玉とグレーリーフシャーク

Part I Koror Base

コロールベースで定番無視のダイビング取材敢行

ブルーコーナーを横目に見ながら進む取材



コロールベースのガイドをつとめてくれた、デイドリームパラオの遠藤さん

すでに7回、パラオに取材に訪れていたが、定番ポイントであるブルーコーナーのバラクーダやギンガメの群れ、ジャーマンチャネルのマンタをまったく無視したロケは、今回が初めての事だった。通常は絶対条件であるこれらの被写体を無視する事は、取材的には気楽だが、「それでは、花形役者たちをあてにせずに、代わりに何が撮れるのか、何を伝えれば良いのか？」という不安も当然心の片隅に潜んでいた。それは、コロールベース取材のガイドを担当したデイドリーム（以下DD）の遠藤学さんにしても少なからずある思いだったに違いない。

しかし、すでに決めた事だ。ブルーコーナーやジャーマンチャネルを横目に見ながら、ボートは別のポイントへと移動して行く。

今回のメインは、DDのオリジナルポイントと、通常はブルーコーナーやジャーマンチャネルの影に隠れて、脇役に徹しているポイントを中心に取材を行った。オリジナルポイントは後で紹介するとして、まずは脇役の紹介から。脇役といっても、他の海では十分に主役の座についてもおかしくない、いぶし銀の大物ポイントが多く点在しているのだ。

まずは、ゲロンアウトサイド。ここは南西風が強くて、人気の定番ポイント（ブルーコーナー、ニュードロップ、ブルーホール）に潜れない時に良く利用される。正直、僕もこれまでにコンディションの悪い時に1度しか潜った事がなかった。しかし、このポイント、実は「東のブルーコーナー」の異名を持っている。無理矢理こじつけたのかとも思ったのだが、ドロップオフというよりは、緩やかなスロープ状の壁には、インドオキアジやホウセキキントキ、オオメカマス、クマザサハナムロやユメウメイロがかなりの数で群れていて、なかなか壮観だ。特にホウセキキントキがこれ程群れている状況は、今まで目にした事がなかった。「カジキ、ハンマー、ジンベエザメなど、変わった大物がドカンと出る事もあるんですよ」と遠藤さん。

「個人的には一番好きなポイントです」と連れて行かれたのは、ブルーコーナーよりさらに北のリーフに位置する、ウーロンチャネル。両サイドのリーフが外に張り出しているため、比較的風に強く、年中潜る事が可能なポイントだ。上げ潮時、チャネルの入り口から内側に流すダイビングスタイルで、入り口付近には、ナンヨウツバメウオ、ギンガメ、バラクーダなどが群れる。水路の途中では、ホウセキキントキが群れ、キャベッジコーラルのヨコミゾスリバチサンゴが群生している。しかし、今回の狙いは、さらに内側、水路が浅い砂地になった明るい場所に群れるインドオキアジとメアジの群れだ。特にメアジの群れには、カスミアジやグレーリーフシャークがアタックをしかけるシーンが見れる。

ウーロンチャネルのインドオキアイジ

ワイドレンズ撮影できる十分な距離まで群れに上手く接近するのはなかなか難しいようだが、今回も最初に潜った時には4~5匹のグレーリーフが群れを取り巻いていた。メアジたちの対抗策はただ、寄り添って逃げ惑うばかり。食物連鎖の下にいる彼らの空しい抵抗を切なく感じながら、「少しでも多く生き残れればいいけど」と僕も空しい同情を彼らに向けていた。

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

今回のロケで案内されたポイント、見せられた生物などは、DDがゲストにも見て欲しいパラオの別の表情でもある。個人的な好みもあるので、ポイントの評価を簡単に下す事は難しい。そこで、今回ブルーコーナーを100ポイント(冬も夏も)とした場合、DDでは、それぞれどれくらいの頻度で他のポイントに潜っているかという実際のデータを元に、検証評価してみることにした。

まず定番ポイントのジャーマンチャネルは冬場70、夏場は120~150。ニュードロップで冬70～80、夏50。ベストシーズンの冬と、オフシーズンの夏では、潜る頻度もポイントによって違ってくる。

今回取材で潜った外洋ポイントとしては、「東のブルーコーナー」の異名を持つゲロンアウトサイドが冬で5無いくらいだが、夏場は200にもなる。これは、ポイント南西側にゲロン島があって風裏になるため、南西風の影響を受けにくい事からこのような数値になる。遠藤さんお気に入りのウーロンチャネルは冬も夏も10前後。

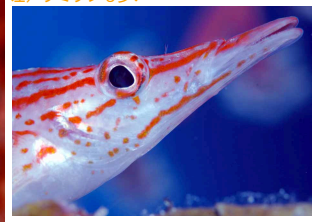
ビッグドロップは、冬は10弱、夏は100。これは、ジャーマンチャネル同様、ブルーコーナーやニュードロップのある外洋手前にあるポイントなので、南西風の吹く夏期でも、風の影響を受けにくく比較的潜りやすい事から、夏に潜る頻度が高くなる。要するに逃げのポイントということになるのだが、ドロップオフに生息するマクロを、ゆっくり堪能したいダイバーにはおすすめだ。

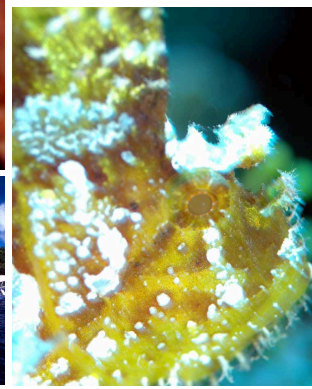
急なドロップオフの壁には、アオマスク、スミレナガハナダイ、ニチリンダテハゼ、キンメモドキ、フタイロハナゴイ、オオテンハナゴイ、ミナミハタ、アカネハナゴイ、バートレットアンティアス、ミナミハナダイ、ソ

パラオでは、どのポイントでも、グレーリーフに超接近できる

カラフルだし、サイズも手ごろで、ついつい撮影してしまうスミレナガハナダイもビッグドロップの定番

左）ウミウシも多い





上）ビッグドロップの水面は、ランチ休息や、スノーケルポイントにもなっている　右上）クダゴンベもビッグドロップの壁で見られる　右下）ハダカハオコゼも見つけた

Impression

定番外ポイント、相対評価

左）赤いイソバナにつく黄色いヤマブキスズメダイも絵になる

上）シャークシティーのリーフトップにあるキャベッジコーラル
左）ビッグドロップの壁には、シャープアイピグミーゴビーなどのベニハゼ系も多く見られる

メワケミナミハナダイ、ゼブラハゼ、クダゴンベ、ハナゴンベ、ハダカハオコゼ、ベンテンコモンエビ、オランウータンクラブ、イソバナガニ、などなど。あまり魚の名前を陳列するのは好きではないのだが、今回はとにかく、マクロがこんなに見れるんだよという事をアピールしておこう。

個人的に好きなのは、ベニハゼ系。サイドスポットドワーフゴビーやシャープアイピグミーゴビー、キャンディーケインドワーフゴビーなどは、一度は見てみたい可愛らしいハゼたちだ。特にキャンディーは、緑色の海草の上に止っている事も多く、被写体としてはかなりのお気に入りだ。

そして上級者向け、ロウニンアジやバラクーダの群れ狙いのシャークシティーに至っては、冬で5～10、夏はせいぜい1～3という数値になる。シャークシティーは、西側の外洋に大きく張り出したリーフトップにある。ロウニンやバラクーダの群れを堪能できるポイント。ロウニンで40~50から500匹、バラクーダで1000匹以上の群れになるという。カジキやハンマーなどとの遭遇も期待できる。しかし、「ペリリュー島の西側を通って、ブルーコーナーの沖を通過し、北上していく流れがシャークシティーの辺りで一番リーフに接近している可能性が高いんです。だからとにかく、魚影は濃いけど流れも速い」と遠藤さん。リーフトップも深く、超上級者向けなのも、数値の低い理由でもあるが、リピーターには人気が高い。

また、このポイントでは、12月の満月には、2000~3000匹ものバラフエダイが群れたり、ツノダシが500匹以上の群れを作る。春と秋の新月では、イレズミフエダイが3000~4000匹も群れる。こうした季節モノの変わった群れとの遭遇が期待できる。

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

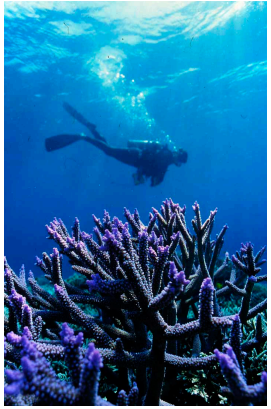
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

まるで海中の万里の長城のように長く連なる白砂の砂丘は、他では見た事のない、海中景観だった（ポイント名未定）

Original Point

デイドリームの オリジナルポイントを潜る

頭の白い部分が真珠のような光沢を見せる、ナカモトイロワケハゼモドキ（セントカーディナルス）



左）カラフルに色付いたサンゴが現気に成長している（ヘブン）

上）コロールベースでの取材では、夏の雲と青い空が広がっていた

キイロサンゴハゼなどの個体数も多い（ヘブン）

定番以外のポイントの他に、DDが開拓したオリジナルポイントにも4箇所潜った。そのほとんどが内湾のポイントだ。まずはセントカーディナル。DDのサービスからボートで5分。3ダイブ目に良く使用するポイントで、最近では他のサービスでも使うようになっている。ユビエダハマサンゴなどの内湾性のサンゴが群生していて、その上には、22～3種類のカーディナルフィッシュが群れていることから、この名前が付けられた。

ハゼの種類も多く、カニハゼ、ギンガハゼ、オドリハゼ、フタホシタカノハハゼ、ネイキッドヘッドシュリンプゴビーなどの他、水深25m付近には、数年前に発見されて話題を呼んだ、ナカモトイロワケハゼモドキ（名前はまだ無い）が多く生息している。黄色と白のツートンカラーのボディーが可愛らしく、頭頂部側から撮影すると、その白い部分がまるで真珠のような光沢を帯びていて美しい。

スタジアムは、夏場のマンタポイントとして利用しているシークレットポイント。水深23mにあるヨスジフエダイの群れるサンゴの根が、クリーニングステーションになっている。「ランク的にはB級ですが、夏場、ユウカクやジャーマンが風の影響で使えない時のマンタポイントとして利用しています。調子の良い時には5割の確率でマンタに遭遇できます」。と遠藤さん。今回のロケで唯一マンタを撮影できるチャンスと、ちょっと期待していたのだが、取材時はシーズン的にも微妙だったために、マンタの姿を拝む事はできなかった。

ヘブンはDDが3年前から潜っている、オリジナルのサンゴポイント。「内湾にありながら、98年に起きたサンゴの白化の時にも、多分ここのサンゴは死んでいなかったようです。今、パラオでサンゴが一番綺麗なポイントだと思います」。原因は、チャネル内にあり、流れが強くなる事もあって、海水が滞留しないからだという。回復しつつあっても、まだまだ完璧と言えないパラオのサンゴ。しかし、ここのサンゴは、被写体としても十二分に絵になる。

ここは、とにかくサンゴの美しさと、サンゴの上で乱舞する、多くのスズメダイに注目。大物も、カンムリブダイの成魚が群れていたり、時にはマンタが捕食しているところに遭遇する事もあるという。サービスからたった5分。しかし、なかなかあなどれないポイントだ。

今回個人的に一番気に入ったポイントは、2005年10月半ばに、遠藤さんが発見した、超ニューポイント。

全長約400m程の白砂の美しい丘陵が続いている。この丘陵の周囲は、普通の平たんながれ場になっていて、何故かこの場所だけが海底砂丘のように美しい砂地になっている。今まで、どこの海でも見た事がない不可思議な地形だ。「潮と潮の強い流れがぶつかってできるんだと思いますけど、詳しくはわかりませんね」と遠藤さん。癒し系砂地ポイントとして、ゲストに紹介できるよう、現在リサーチを続けている。

このように、オリジナルポイントの開拓に余念が無いのもDDのスタッフたちの海に対する向上心の現れと言えるのではないだろうか。今後の開拓にも期待したい。

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

A man named Sochai

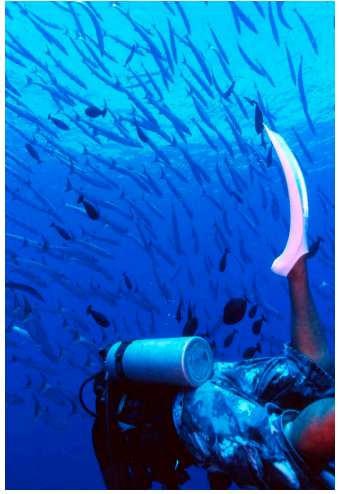
ソアイという男

「越智さん、初めまして。今日遠藤の代わりにガイドを担当するソアイです。よろしくお願いします」。流暢な日本語で話しかけてきたのは、DDのパラオ人ガイドのソアイ。屈強な体躯と、穏やかで優しそうな雰囲気が、初対面の人にも好印象と安心感を与えてくれる。

実は、お互いの連絡ミスで、取材初日、日程を1日間違えていた遠藤さんは、ゲストを連れてペリリューに遠征していた。そのため、初日はソアイのガイドで、他のゲストと一緒にファンダイブのポイントに潜る事になった。まあ、先は長いので、そんなに慌てる必要は無い。もともと「うちのパラオ人スタッフの仕事ぶりも見て欲しい」と言われていたので、丁度良い機会だった。

DDでは、パラオ人スタッフにも重要なオペレーションなどを任せている。ソアイの担当しているのは、その日どこに潜るか、誰がガイドを担当するかなどの、日々のダイブオペレーション。テキパキと指示を出し、ゲストのケアも繊細にこなしていく。日本人ゲストに突っ込まれた時のリアクションも、どこか日本人っぽくて面白い。

ダイビングではTシャツにサーフパンツのまま潜るあたり、やはりローカルガイドっぽいのだが、そういえば、DDのオーナーで現在グアム店を運営している下田さんも、良く同じような格好で潜っていたのを思い出した。「ウエットスーツあったんですけど、着れなくなってしまったんです。本当は新しいの欲しいんですよ」と笑う。



ダイビング中も、ボート上と同じTシャツに短パンで潜るソアイ

水中でのガイドの仕方も、日本人に合った細やかさが感じられた。これは、デイドリームのパラオ人スタッフは皆、姉妹店である西表島のウナリザキに行って、日本人がどのようなダイビングを好むかを数カ月間みっちり研修してきている成果だという。

そしてアフターダイブの飲み会の席にも、しっかり姿を現して、ゲストと一緒に食事をする。安心感、信頼感、そして親近感。全てにおいて、ソアイを筆頭にDDのパラオ人スタッフは、日本人が居心地良い空間を提供してくれているように感じた。

コロール市内に5つのホテルを持つウエストプラザホテルズ。室内はどこもシンプルで広々としていて、ダイバーが利用しやすくなっている

デイドリームお勧めの宿泊先

ウエストプラザホテルズ

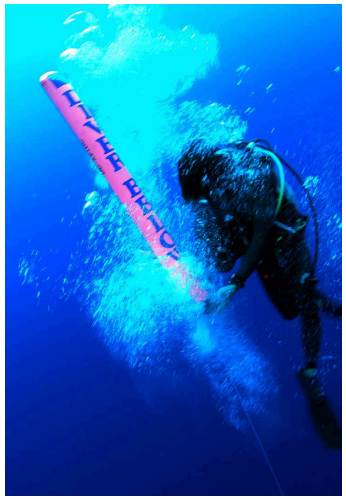
今回のロケで滞在したウエストプラザホテルズは、コロールに5店舗を有する。作りはビジネスホテルタイプでリーゾナブルだが、室内は広く、清潔感もあって快適。エアコン、シャワー、冷蔵庫、テレビ、電話などの室内の設備も充実。コロールの中心街にあり、人気のウエストプラザダウンタウン。デイドリームから徒歩3分の距離にある、ウエストプラザマラカルには、フロントにインターネットサービスがあったり、併設のバー＆レストランも雰囲気が良く利用勝手も良い。その他、デセケル、コーラルリーフ、バイザシー全ホテル合わせて134室を有する。利用用途に合わせて、5つのホテルの中から選択できて、パラオに訪れる日本人ダイバーの間では、最も人気のあるホテルだ。

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www1.tour.ne.jp/toku/tur/catlist.php?grp=29375
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

空から撮影した、ペリリュー島最南端。手前がペリリューエクスプレス、奥がペリリューコーナー（撮影：鍵井靖章）

Part2 Peleliu Base

デイドリームの新たなスタイル。ペリリューステーションで潜る



リーフから離れて3分以内にフロートを上げる。もたもたしていると、あっという間にリーフが見えなくなってしまう

激流！ ペリリューエクスプレス

「緊張する」。 世界中の様々なポイントを潜ってきたが、この海だけは、いまだに潜る前にいつもと違う緊張感に包まれる。 それは、自らの意志で、デイドリーム・ペリリューステーションをオープンした秋野大(ひろし)さんも共通して持つ気持だという。信心深い方でも無いのに、ペリリューに潜る日の朝は、「何事もなくダイビングを終えられますように」と誰にともなく、無事を祈ると聞いた。「願掛けみたいなものですよ。気持が引き締まるんです」と笑うが、あちこち取材に訪れて、そんな話を聞いたのは今回が初めての事だ。

ペリリューコーナー、ペリリューエクスプレスは、それだけ特別な海なのだ。そして、パラオを潜り込んだハードリピーターであれば、一種のステータスとして、誰もが一度は潜ってみたい憧れのポイントでもある。

パラオを潜り込んだ秋野さんのようなガイドや、僕のように世界中の海で数多く潜っているプロカメラマンをして、「恐い」と思わせる理由は何なのか。ドリフトダイビングにおいて、魅力の一つでもある潮の流れは、大物との偶発的遭遇に懸ける博打のようなダイビングには欠かす事のできない要素でもある。しかし、この海の「潮」の強さ、否、強烈さや複雑さは、正直半端無い。

以前、このポイントに潜った時には、巨漢で屈強な欧米人たちと一緒だった。しかし、吐き出したエアは渦を作りながら、真横に飛ばされ、飛沫となってブルーウォーターに飲み込まれた。流れに対して顔を横に向けるとあっと言う間にマスクがずれてしまった。あまりに強烈な流れに、誰一人コーナーの先端まで進めず、一人、また一人と吹き飛ばされていった。僕は、なんとかカレントフックを使って、必死に耐えていた。しかし、頭上をグレーリーフシャークが潮に吹き飛ばされるのを「すげ～」と感嘆しながら見上げ、態勢を崩した途端、「ブチッ」という音とともに、カレントフックのロープが千切れて吹き飛んだ。水面では、皆バラバラに浮上していて、あちこちにフロートが浮かんでいた。全員が無事ボートにピックアップされたのを確認すると、皆「It'a great spot !」と興奮しながら笑顔で喜びあった。何が見れた訳でもないのだが、僕にとって、今でも鮮明に記憶に残るダイビングの一つになっている。

秋野さんと潜ったこの日も、ロウニンアジの群れ狙いで、かなりリーフのコーナーに近いポイントからエントリーしたからか、その時程では無いが当初の予想以上に流れていた。カメラ2台、3台持って入るのが常だが、ここではカメラも1台のみ。リーフトップに行き着くまでにかなり流れに逆らって猛ダッシュでフィンを掻き続けた。鼓動が高鳴る。「落ち着け、落ち着け」。僕は心の中で何度も自分に言い聞かせ、秋野さんとあまり距離を離されないように後について泳いで行った。

上）今回真近で見る事ができなかったロウニンアジの群れ。しかし、遭遇確率は高い。（撮影：秋野 大）
右）ペリリュー取材は、連日激しい雨の降る中で進められた

コーナーの先端まで一気に流される。しかし、ロウニンの姿は見当たらない。どうやら今回は外してしまったようだ。しばらく流れに逆らってリーフトップで踏んばっていたのだが、秋野さんがエキジットのサインを出す。それに答えると同時に二人でリーフから離れ、流れに乗って浮上を始める。あっと言う間に外洋に流され、コーナーの先端が見えなくなって行く。まだ水深15m程だったが、秋野さんが、即座にフロートを上げた。オクトのパージボタンを押して、吹き出したエアが弾けて、周囲に霧散した。フロートを上げてしばらくすると、「ちゃんと確認しているよ」というようにボートが近くを通過してくれた。キャプテンのこの行為のお影で、安心して安全停止を行う事ができた。

通常、このポイントからはエントリーしない。もっと流れの穏やかな場所から流すのだが、ロウニン狙いで無駄なエアの消費を避けるための手段だった。それでも、ダイブタイムはたったの20分。無事ボートにピックアップされると、正直ほっと胸をなで下ろした。

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

ペリリューステーションをオープンしたデイドリームの秋野さん

「最高で2ノット(1ノット=1.852km/h)くらいの流れの時に潜った事もあります。今日はそれくらいあったかも。3ノットあったら、皆バラバラになります。ブルーコーナーでも2ノットくらいになる事もあるけど、その時は潜らないですね」。ダイビングを終えてDDペリリューステーションに戻ってログ付けしている時に、秋野さんがそう答えた。多分以前欧米人と潜った時にはそれくらいあったのかもしれない。あの時は岩に捕まるのに必死で、シャッターを切るどころではなかった。

「ここの流れを制覇できた事がダイバーとしてのステータスにもなるんですよね」と秋野さん。確かに、今回のダイビングは、スリルは味わうには丁度良い潮だったかもしれない。カメラマンとして、何も撮影しなかった事に満足はできるものではないが、あれだけの潮を体験しただけでも、潜った価値はある。翌日も1本目はペリリューエクスプレスの予定だ。「明日はもう少し何か撮影できればいいのだけど」。

天候が許す限り、連日このポイントに潜れるのは、DDが冬のベストシーズン限定でペリリュー島に支店を置いたためだ。2005年12月1日オープンで、取材時はオープン前のリサーチ期間でもあった。リピーターのニーズに答えるため、そして、自分自身のパラオの海に対する飽くなき探究心を満足させるために、この地を選んだ秋野さんの選択の是非が試される。その一翼を担うべく取材に訪れたのだが、コロールベースで取材していた時ほど、天候が芳しくない。明日ペリリューエクスプレスに潜れるかも微妙な状態だった。

もちろん、潜れるポイントはここだけではないので、撮影に支障は無いのだが、ロウニンアジの群れだけは押さえたい。他のポイントはともかく、ペリリューだけは自分にとっても特別なのだ。「このポイントを克服したい」。口には出さないが、そんな思いがあった。プロカメラマンの僕にとって、それはこのポイントの魅力を読者に伝え「潜ってみたい！」と思ってもらえるインパクトのある1枚の写真を撮影する事だ。そのために僕はここにいる。

しかし、「40分以内に来る雨雲がある場合、晴れていても潜らない。とにかく、あなどってはいけない恐いポイントなんですよ。ガイドの僕だけじゃなく、キャプテンも恐い。だからより安全に潜れるための対応は十分にしていくつもりです」と秋野さん。そうなると明日の天気は微妙だ。

その他、晴れていても、極端に潮の流れが速い時や、ピックアップに適さないコンディションの時も潜らない。エキジット時、コーナーのリーフトップから離れて3分以内にガイドは必ずフロートを上げる。フロートを確認したら、ボートキャプテンは確認した事をダイバーに知らせるためにフロートの近くを一度通過する。8人限定の少人数制に対してガイドは2人。ダイビング経験本数50本以上。経験本数が満たされていても、チェックダイブで安全に潜れないと判断した場合には、潜らせない。フロート、カレントフックは各自が必ず携帯するなど、DDではペリリューを安全に潜るためのルールを徹底していく予定だ。しかし、何よりも重要な事は、ガイドとボートキャプテン、そしてゲストとの信頼関係を築く事にある。

「安全確保は絶対条件ですが、ゲストが望むのであれば、攻められるところまで攻めますよ。どうしても潜りたい人に来てもらえればいいと思っています。潜らせないと言っていますが、決して切り捨てるのではなく、皆が楽しめるようなオペレーションをしていくつもりです。1ダイブ1ダイブ手を抜かない努力をします」と秋野さんは熱く語った。

激流！ ペリリューエクスプレス

Peleliu Express

本当にこの海に潜りたい人に来て欲しい

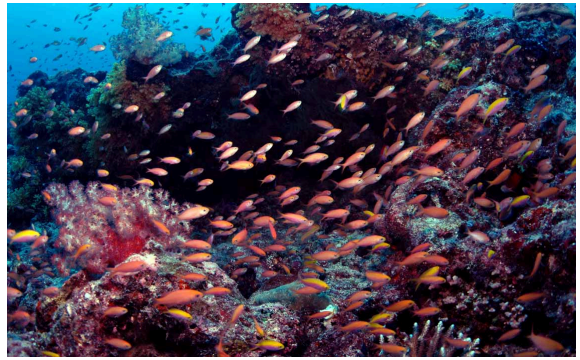
取材では、ボートキャプテンをつとめてくれた、ゴードン。秋野さんが絶大の信頼を寄せている

吐き出したエアは、真横へと渦をまきながら流されていく

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

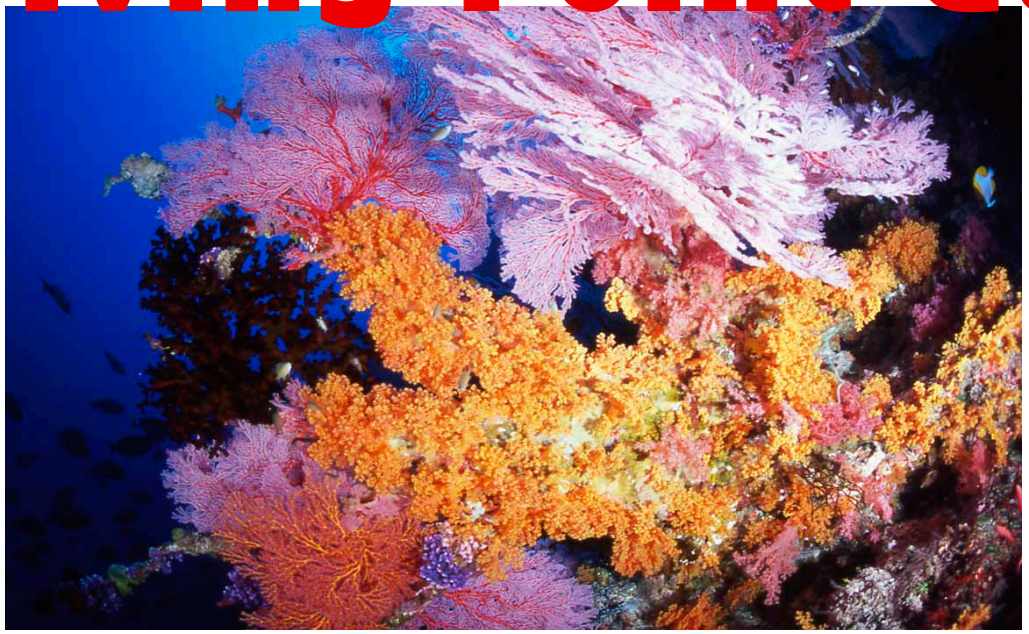
左）オレンジビーチには、6000匹ものギンメアジが群れていた
右）ソフトコーラルに半端無い数で群れるバートレットアンティアス

突然目の前に飛び出してきたツムブリの群れ



Diving Point Guide

ペリリューステーションで潜る魅力的なポイントの数々



インドオキアジの群れにも接近しやすい

左）イエローウォールのカラフルなソフトコーラル
（撮影：鍵井靖章）

ペリリューベースで潜るメリットは、島の周囲に点在する群れモノポイントやマクロポイントに短時間で潜りに行ける事。島の南側にあるキャンベックの港から東へ向うとペリリューコーナー、エクスプレスがある。港のすぐ外、西側にあるのはオレンジビーチというポイント。スロープ状の地形、水深30m前後にノコギリダイ、インドオキアジ、オオメカマス、ギンガメアジなどが群れを作っている。ダイビング中、1mサイズのキハダマグロ4匹にも遭遇した。特にギンガメアジの群れは推測するところ、6000匹はいそうだ。ブルーコーナーで約2000匹というから、どれだけ凄い群れかは想像がつくだろう。壁となったギンガメは、いつまでたっても途切れる事がなかった。しかし、ペリリューコーナー側に向って潮が流れている時には、ギンガメがそこにいるのだが、逆に流れている時にどこにいってしまうのか、あれだけの数がまったく姿を見せなくなってしまった。今後のリサーチが必要だ。

ペリリューエクスプレスを北上したところには、イエローウォールがある。ドロップオフの壁面やリーフトップには、一面蛍光オレンジやイエローのソフトコーラルが群生していて、その上にバートレットアンティアスが群生している。ここにもリーフトップでインドオキアジやオオメカマスが群れを作っていた。

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

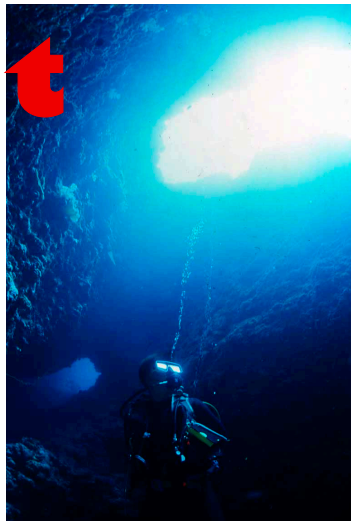
Macro Point

ペリリューエリアのマクロポイント開拓中

左）ギンガメなどの群れも迫力ものだが、
のんびりマクロもまた楽しい

下）テッポウウオは、他の海ではかなりレア物。キャンベックの港の桟橋下で見られる

上）キャンベックの港内は、四方をマングローブに囲まれて、風が吹いても穏やかだ



タートルコーブでは、ホールなどの地形も楽しめる

マクロポイントとしては、イエローウォールからさらに島の東岸を北上した場所にあるハネムーンビーチやキャンベックの港内、それに現在ペリリュー州エリアになっているタートルコーブ、ゲドブスコーラルガーデンなど。

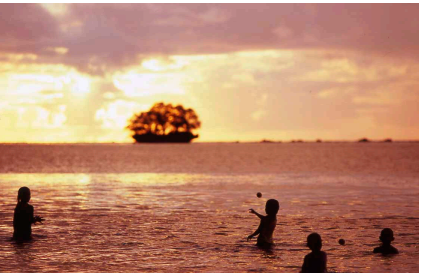
ハネムーンビーチとタートルコーブは深場のマクロ。見れる魚もアケボノハゼやパーリーシグナルフィッシュ、タイニーダートゴビーなど似ているのだが、ハネムーンビーチの方が全て10m近く生息エリアが深い。一般の人を連れていける深さでは無いだろう。 タートルコーブも40m近くなので、決して浅いとは言えない。

ストレス無くマクロ撮影を楽しむのであれば、マングローブに囲まれたキャンベックの港内がいい。島の南にあるこの小さな港は、ペリリューやオレンジビーチといった、メインのポイントがすぐ目の前にある。水深は深くても4m。3種類のヤツシハゼや、スフィンクスサラサハゼなどのハゼ類の他、クジャクスズメダイやテッポウウオなど地味目だけど、ちょっと気になる魚たちが沢山生息している。激流と戦った後の3本目、4本目に潜るのは、身体を休める意味でも丁度良いのかもしれない。運が良ければ(？)パラオに生息するワニにも会えるかも。

上）タートルコーブでのレア物、タイニーダートゴビーは、40mと深目
右）サイドスポットドワーフゴビーは、水深30m以浅なので、問題なく観察できる

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



上）夕日を浴びた、海辺で遊び続ける子供たち（撮影：鍵井靖章）

何故かサルを飼っている民家が多い

南国の花が咲き、のどかな風景が広がる島内に心癒される

写真左から）木登りをして遊ぶ、元気な女の子／島の中の主要な交通手段は自転車／自転車で通り過ぎる子供も笑顔で答えてくれる

Simple Life

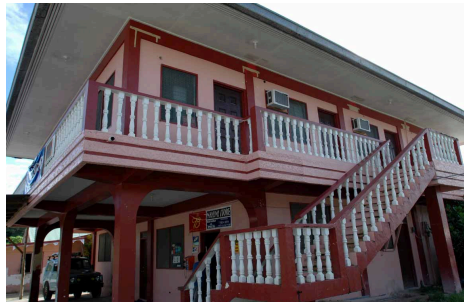
「Be basic」素朴な島のシンプルライフを楽しむ

2日目の朝、諦めていた天気もなんとか持ち、再度ペリリューエクスプレスに潜った。前日ほど流れも強くなく、200～300匹で群れるロウニンアジも目撃する事ができた。しかし、40mまで潜行したが、群れはそのさらに下を通過し、十分に撮影できる距離まで接近する事はかなわなかった。エキジット後、島は黒雲に覆われ、強烈な雨を降らせた。そんな状況でも、黙々と取材は進められた。

「コンニチハ」、「ゲンキデスカ」。ハードなダイビングを終え、雨の上がった町中をぼ～っと散策していると、出会う人、出会う人が笑顔で挨拶をしてくれる。最初は照れていた僕も、いつの間にか笑顔で挨拶を返していた。この島では、老人たちの優しい微笑みと、子供たちの無邪気な笑顔に、普通に出会える。「日本でも、こんな風だったらいいのにな」と思いながら、彼らの笑顔をカメラに納める。

車もほとんど走らない、静かな島の風景と、人々の優しさが、ダイビングで疲れた身体と心を癒してくれる。

取材中、結局最終日まで天気が回復する事は無かった。秋野さんは、悔しがった。もちろん、僕も。満足行く取材では無かったが、DDのスタッフと一緒に過ごす居心地の良さを感じ、この島の優しさに再び触れられた事は、自分にとって大きな大きな収穫だった。



2階が客室、１階に小さなマーケットが入っているペリリューアイランドイン

デイドリームお勧めの宿泊先

マユミイン／ペリリューアイランドイン

DDペリリューステーションで潜る場合、ペリリュー島での宿泊先は、毎日ゲストの食事を作ってくれるマユミお母さんの経営するマユミインか、彼女の息子が経営しているペリリューアイランドイン。室内にはどちらもクーラーがあるが、マユミインは共同シャワー。どちらも、DDステーションから徒歩3分で、田舎の島の民宿といった感じの素朴な宿だ。食事はどちらもマユミインの食堂で食べる事になる。お母さんの作る料理は、ほとんどが日本食。どれも美味しくて、滞在中、食に困る事はなかった。

写真左から）マユミインの食堂入り口／食事は和食中心、おかずの種類も多い／マユミインの外観／ペリリューアイランドインの部屋は、シャワー、トイレ付き

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www1.tour.ne.jp/toku/tur/catlist.php?grp=29375
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

前デイドリームパラオマネージャーで、
12月よりペリリューステーションを手掛ける秋野大(ひろし)さんと、
現マネージャーの遠藤学さんに、
今回の取材の意義と成果を語ってもらった

Part3 Interview

「定番無視のパラオ」取材を終えて

聞き手:越智隆治(WEB-LUE)

越智：取材、お疲れさまでした。まずコロール取材は満足いくものでしたか？

秋野：今回の取材、コロールはコンディション良かったよね。

遠藤：まあ、おかげさまで。すみません。

一同：(笑い)

越智：でも、日程をフィックスしたのは秋野さん。

遠藤：そうですね。

秋野：でもペリリューで風が吹いたのも、天気が悪かったのも、雨が降ったのも全部遠藤のせいですから。

一同：(笑い)

越智：な、何か理由があるんですか？

秋野：いやいや、僕らに不利な事が起こったのは、全て遠藤のせい。

越智：いやいや（笑）、だからその理由は何なの？

遠藤：そうですよね～。理不尽ですよね。

越智：こういう上司にはならないようにしないとね（笑）。

遠藤：勉強になります。

秋野：んっん～ん（咳払い）。

越智：で、どうだったんですか？

遠藤：う～ん、そうですね～。今までどの雑誌でもやった事のない取材だと思うですよ。だいたい必ず、ブルーコーナー、ジャーマンは外さないじゃないですか。いつものお約束で～って感じで取材できるのである意味楽なんですけど。実際のダイビングでもその場所をメインにしたダイビングが普通ですからね。ブルーコーナー入れば、外れなく取材陣やゲストに魚見せられるじゃないですか。でも、あそこがある故に、僕らはすごく楽ができちゃっていると思うんですよね。あそこは潜れるけど、他の所はちゃんと潜れないっていうガイドさんも僕は案外多いと思うんですよ。一歩間違えれば、そこでぬるま湯に浸かってしまってスキルが上がっていかないっていう可能性もあると思うんですね。

そういう部分をあえて外した中で、これだけできるんだよっていうのを、まあなんとか見せれたのかなと。後は越智さんの編集次第だとは思うんですけどね（笑）。

越智：えへへへへ。次回頑張るって事で～。

遠藤：とにかく、結構プレッシャーでしたね。結果的に実験的に入った、まだリサーチ段階の砂地のポイントを越智さんが気に入って頂けたのが、僕にとってはすごく嬉しかったです。後、ウーロンチャネルのメアジは是非見て欲しかったんです。あそこは、潮が良ければ僕の一番好きなポイントなんですよ。

越智：今回初めて潜ったポイントもあったんですけど、他のディスティネーションなら十分メインで張れるようなポイントもあって、バリエーションの多さが凄いなと思いましたね。群れの種類とか、季節ものの群れる魚の種類とかも、他の海とかよりも豊富なのかな～って気がしましたね。

遠藤：そうですね。あんまりバラフエダイ、イレズミフエダイが群れるって聞いた事ないですもんね。

越智：僕も見たいって思うもん。

秋野：イレズミフエダイなんかはリピーターの人たちは、いつ狙いに行くのかってメールも入ってきますからね。HPにも情報出しているし。

越智：HPは他のサービスに比べて充実してる方なんですか？

秋野：かなり力入れてますから。多分、1、2を争うくらい充実していると思いますよ。

遠藤：カウンターを見ると、アクセス数では圧倒的に一番ですね。

越智：1日のアクセス数はどれくらいなんですか？

遠藤：今は600～700くらいですかね。

秋野：シーズンに入ると1000件くらいになりますね。全然僕らまだ納得していないんですけど。今、ペリリューステーションのHPで本家（DD）のページを抜いてやろうかと思っているんですけど。ペリリューのHPは本家のトップにリンクしてるから、本家見なければ入れないんですけどね（笑）。

遠藤：無理じゃないすか（笑）

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

越智：話を戻しますが、コロール取材は、ペリリュー取材と比べると、まあ、僕個人的に100点満点で50点以上は違うかなと。あくまでコンディションの問題ですけど（笑）。

秋野：どんな取材でもリミットがあるので、100点満点ってのは無いんですけど、今回天候が悪かった割には、個人的に頑張ったかなって思います。でも天気が良かったら、もっといろんな攻め方ができたんじゃないかなって。いや～、でも今回、ちょっとね、サンゴのポイントとして、ゲドブスコーラルガーデンをヘブンにぶつけていったつもりだったんだけど、越智さん的に、ヘブンに軍配を上げたのは、コロール対ペリリューのダイビング対決を企画して、今回ペリリューのガイドとして、負けたのは残念だけど、コロールもまだまだ行けるなってのは、個人的には嬉しいですよ。

越智：ヘブンはね、どういう意味で良いかって言うと、僕からすると、サンゴの写真が撮りやすいんですよ。ゲドブスコーラルガーデンは写真が撮り辛いんです。ヘブンの方がエダサンゴの林立してる度合いが良いし、どうしてもサンゴの写真って、枝振りが小さいのよりも、太いものの方が写真にはしやすいんですよ。その方が誌面的にも写真が映えるし。

秋野：でも、1年間に7センチ伸びるんですよ。ゲドブスは回復しつつありますよね。

越智：まあ、でも明日コロールとペリリューのポイントで、最後にどこか浅場潜りたい場所あるかって言われたら、砂地とヘブンかな～。

秋野：まあ、今回ペリリューは正直天候が厳しかったですね～。でもやるだけはやったかなという思いはありますね。

越智：確かに、あれだけコンディションの悪い中で、あれだけ潜った取材は、個人的には初めてですね。

秋野：とりあえずね～、デジカメワイドの威力があれだけすごいってのは、ちょっと驚きでしたね。

遠藤：え？マクロだけでなく、水中のワイド、デジカメで撮影したんですか？

越智：ペリリューはね、天気悪かったので、ペリリューエクスプレス、オレンジビーチ、イエローウォール、ワイドもマクロも全てデジカメで撮影したんですよ。黒雲で土砂降りの雨だったし、ISO100のフィルムだと＋1増感しても、露出取れなかったんですよ。

秋野：メインのポイントはことごとくでしたね。厳しかったですね～。

越智：でも、あれだけ深くて流れる海だと、天気が良くてもやっぱりデジカメの方が正解かな。そんな事はともかく、一番聞きたい事が最後になっちゃったけど、今回、こういう（定番のポイントを外した）取材をした意図って具体的に何ですか。

秋野：まず、あまり知られていないパラオ、新しいパラオを知って欲しかったというのと、ペリリューステーションを開設したのを機に、ペリリューの事を知ってもらうとともに、遠藤体制の新しいデイドリームのあり方ってのを伝えたかったんですね。既存の枠に捕われないで、今までやってきた形プラス、オリジナルの部分を前面に出したかったんです。

今回、通常のダイビング雑誌でのパラオの露出からすると、かなり違った切り口になっているはずなので、その部分を読み取ってもらえればと思っています。それから越智さん、来年2月頃に取材のリベンジも是非やりましょう。

越智：が、頑張ります。今回は本当にお疲れさまでした。

秋野、遠藤：お疲れさまでした。

タイドテーブルを見て真剣に翌日の打ち合わせをする、ペリリューステーションの秋野さんと井口さん。

デイドリームパラオでは、常にゲストの事を考えたサービスの提供を心掛けている。海に対する情熱やこだわりを持つスタッフが揃い、ゲストへのケアも行き届いている事は、リピーター率の高さにも伺える。
http://www.daydream.to/palau/

Interview

「定番無視のパラオ」取材を終えて

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

今回のロケに関わった5人の人たちから、
パラオに対するそれぞれの思いを語ってもらった。
パラオの海の魅力は、こうした人々の思いによって
築き上げられているのだろう。

Part3 Interview
パラオを愛する者たち
特別インタビュー

僕は最初にダイビングに関わった時は、パラオの海は、他の国の海とそんなに変わらない普通の海だと思っていたんですね。 でも、ゲストの話を聞いたり、他に研修で沖縄に潜りに行ったとき、サンゴも綺麗で透明度も高いけど、あまりサメもしないし、大物もいなかった。実際にガイドしてみて、徐々にパラオの海の凄さを実感するようになっていきました。マクロも大物も何でも探せるし、今では、本当にパラオはいい海だと思っています。

日本人ゲストをガイドするのは楽しい。 本数が少なくてもスキルのしっかりしてる人が多いと思います。ブリーフィングもしっかり聞いてくれるし、環境に対するマナーもしっかりしている。パラオ人として本当に嬉しいです。

日本語はDDに入ってから、学びました。 それに沖縄に2回研修にも行ったし、ちょっと日本人の彼女がいたこともあって、それでなんとかしゃべれるようになったかな。

僕は、ゲストの喜んでくれる顔を見ると本当に嬉しいですね。でも、ゲストが皆リクエストもバラバラだし、昔と違って、最近はガソリンの値段も上がってしまって、リクエストに答えにくくなっているとこともあります。 でも、本当はゲストのリクエストにもっともっと答えたいんです。

1本目にブルーコーナーでバラクーダやギンガメアジの群れを見て、2本目にジャーマンでマンタ、3本目にマクロ。 全部見れて潜り終わってから、ゲストが笑顔を見せてくれて、「またパラオに来るよ」って言ってくれたら本当に幸せです。

ソアイ
デイドリーム・パラオ
パラオ人ガイド

Information Link click! 情報HPへジャンプ
http://www.divenavi.com/palau/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

井口 真佐子
デイドリーム・ペリリューステーション
ガイド

ペリリューの海は本当に「怖い海」。それが、お客様受け入れスタートの前から始めたリサーチダイビングの時に感じた事です。勿論、ペリリュー海域全てのポイントがそうとは当てはまりません。「ペリリューコーナー」「ペリリューエクスプレス」。この二つのポイントに関しては、何が起こるか分かりません。「流れ」を確実に把握し、そしてそれをカバーする「しっかりとしたブリーフィング」がお客様に楽しいダイビングを提供できる第一の事柄だと思います。

お客様に「怖い」思いをさせないのも、ガイドの力量にかかってくると思います。それが全て出来てなおかつ「何か」がダイビングで見れた時に、ガイドとしての達成感が生まれるのだと思います。勿論、何も出ずにひたすら泳ぐだけのダイビングになってしまう事もありますが……。けれど、「この海を安全にガイドが出来るようになりたい」と言う挑戦が、今の私の中にはあります。

それとは逆に陸上のテンポの遅い事……。歩く人のスピードが遅い。何もせずに、仲間同士でのんびり話している光景。ダイナミックな海の印象とは相反した陸上の素朴な人々との触れあい。海と人とのふれあいが本当により近い存在としてあるのが、ここペリリューだと思います。

なるべく多くの人に海だけのイメージが先行しない「ペリリュー島」をご紹介したいと思います。お客様がペリリューに何を求めてくるのか。お客様が帰られる際に「のんびり出来たなぁ」と思ってもらえれば、とっても嬉しいですね。

知花 学
ウエストプラザホテルズ
マネージャー

パラオに来て11年になります。日本にいて同じ事の繰り返し、時間に追われる日々からちょっと抜け出したかったんですね。母親がパラオ人で体調を崩したので、丁度良いからパラオに戻ろうかって事で移り住んだんですね。

ダイビングもいいけど、30分でもいいから、無人島に行った時に島の自然もゆっくり見て欲しいと思いますね。海の中だけでは、もったいないですよ。

ウーロンチャネルに行く途中にある、ウーロン島なんか大好きです。最初にヨーロッパにパラオを文化的に紹介するきっかけになった、イギリスの商船アンテロープ号が打ち上げられた島です。今は無人だけど、昔は人が住んでいたそうです。そういう人の住んでいた痕跡なんかを感じるのもいいですよ。壁画みたいのも残っているし。海ガメが産卵する事もあるんですよ。

古女房みたいで、住んでいるとパラオの悪い部分も色々見えちゃうんだけど、なんだかんだいいながら好きなんですよ。だから、ずっと住んでる。気軽な島っていうんですか。お昼には皆自宅に帰って食事して、また午後仕事に行くんですよ。時間に追われない生活って、やっぱり一つの贅沢ですよね。

ウエストプラザバイザシーの前の浅瀬なんか去年、何十匹ものマダラトビエイの群れが現れた事があります。「何でこんなところに」って思ったんですけど、交尾なのか、子供を生むためなんですかね？ そういう予想だにしない事が起こるのもパラオの海の魅力なのかな。

島村 知子
エスティーワールド 渋谷本社
ダイビングデスク

今回、パラオ自体が初で、コロールもいなかだと思っていたのに、ペリリューは、さらにいなかでした。というか何もない島でした。ペリリューに初上陸して、まず目に飛び込んできたのは、あちこちに見られる戦争の跡。そして、外国なのに、なぜか懐かしい空気。数年前の石表島の縮小バージョンといった感じでしょうか？

ゆったりと流れる島時間、おいしい食事、フレンドリーな島の人々との触れ合いを感じることのできるナチュラルアイランド。こんなのんびりした島とは、逆にエキサイティングな海が近くにある。

デイドリームのペリリューステーションは、期間限定、8名限定だからこそできるベストな海と自由な潜り方ができると思います。もちろん、老舗のデイドリームですから、安全面、ガイディングには間違いはないと思います。海を熱く語る秋野さんと、支える癒し系井口さんのお二人が、向かえ入れるお客様をきっと満足させてくれることでしょう。

私は、たった2日間の体験でしたが、何日もいたような錯覚を感じられる島であり、スタッフの方々と密着したダイビング合宿みたいに思えました。コロール滞在のスタイルに飽きている方、もっとエキサイティングなダイビングを体験したい方に、今期のペリリューステーションを是非是非、お試し頂きたいと思います。
私自身も、今度はゆっくり滞在して潜りに行きたいです。

秋田 健三郎
エスティーワールド 渋谷本社
ダイビングデスク

パラオの海は、一言で言うと「食物連鎖を感じる海」です。ジャーマンチャネルでアジ玉に猛アタックをかけるカイワリを見たり、ブルーコーナーで何十匹というサメが何かにアタックをかけているのを見たり、ゲロンアウトサイドではナポレオンが集団で産卵行動を取っているのが見れたり。とにかく1本潜ると、ただ単に「魚を見る」だけじゃなくて、「魚が何かをしている」という明確な一つのドラマを垣間みれると思うんです。だから、同じポイントに何回潜っても面白い。いつも何かワクワクと期待できる海ですね。個人的には浅くて明るいジャーマンチャネルが好きです。

以前、ペリリューにも入りましたが、一緒に潜ったゲストが、あっと言う間にエア切れして、5分くらいで浮上したので、あまり覚えていませんが、とにかく流れが早くて、エキサイティングな海でした。

コロールは和食のお店も多く、食が充実しているのが嬉しいですよね。ポイントに移動するまでのロックアイランドの風景も好きです。これだけダイバーが訪れているにも関わらず、俗化していない雰囲気もいいですよね。日本から直行便で行けるダイビングディスティネーションの中では、個人的には、今一番おすすめの海です。

デイドリームは、スタッフの息が長いし、データの蓄積、経験の豊富さ、常に新しい事を企画しているなど、海に対する信頼感や情熱があって、海を楽しみたい人には最高のダイビングサービスだと思います。リピーターが多いのは、アフターダイブも含めて、ゲストへのケアが行き届いている証拠ですね。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます